

[資料編]

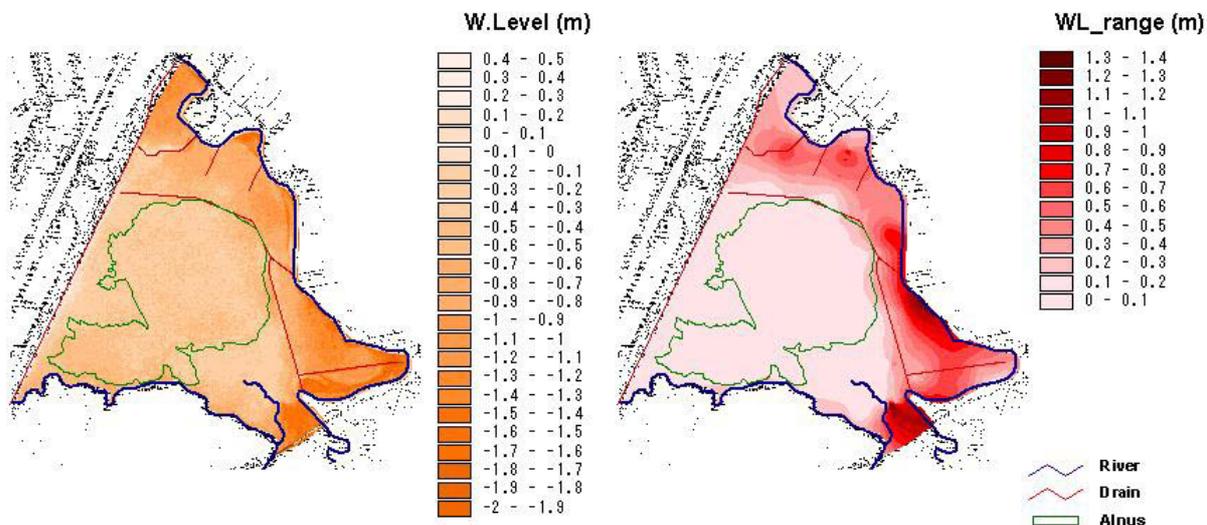
広里地区

幌呂川地区

雪裡樋門・安原地区

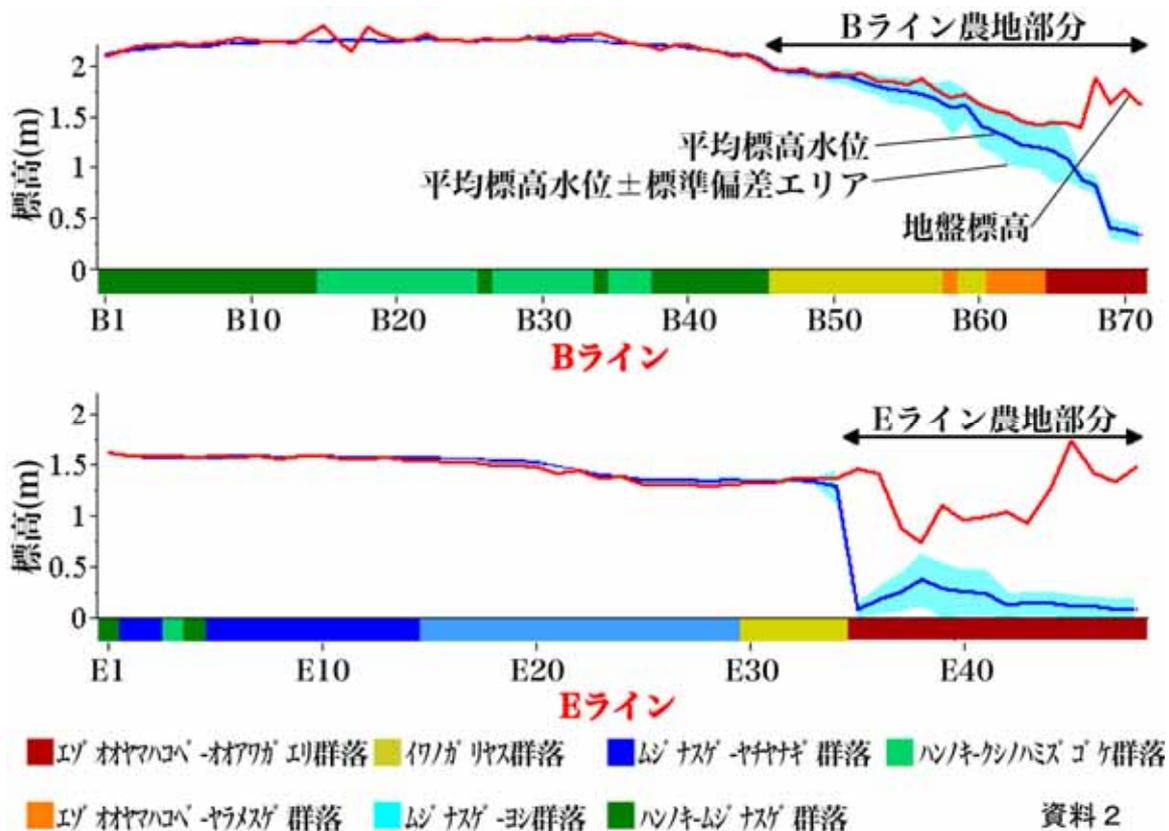
1. 広里地区

資料 - 1



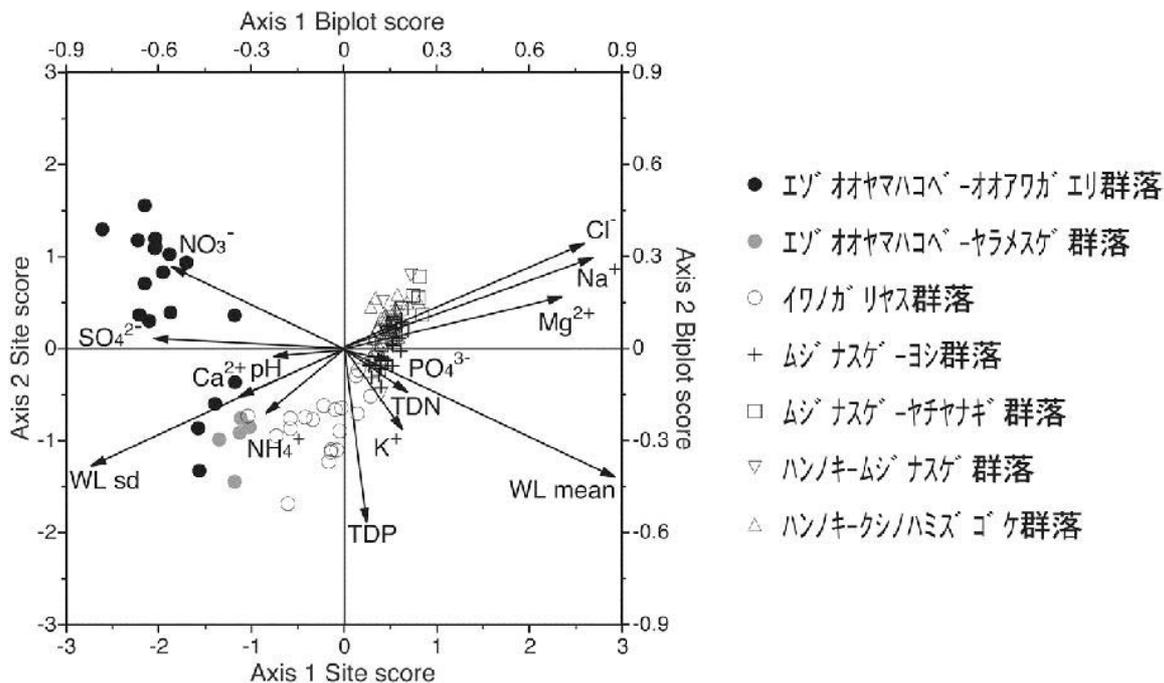
資料1 観測時の地表面水位分布(6月)と観測期間地下水位変動幅分布.

資料 - 2



資料2

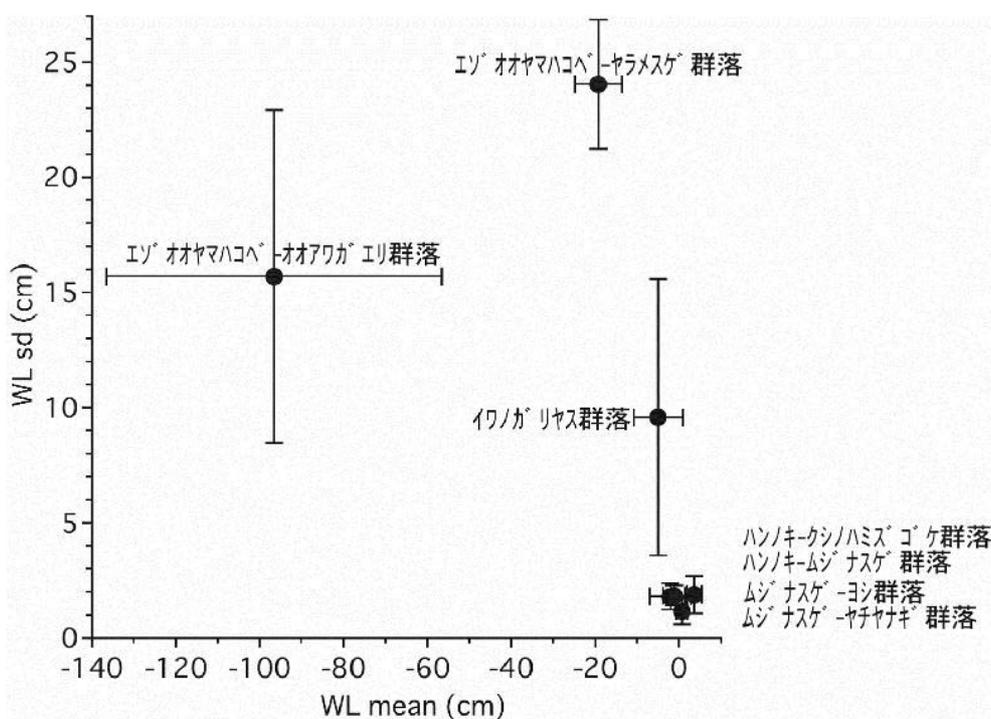
資料 - 3



資料 - 3 全調査プロットによるCCA結果

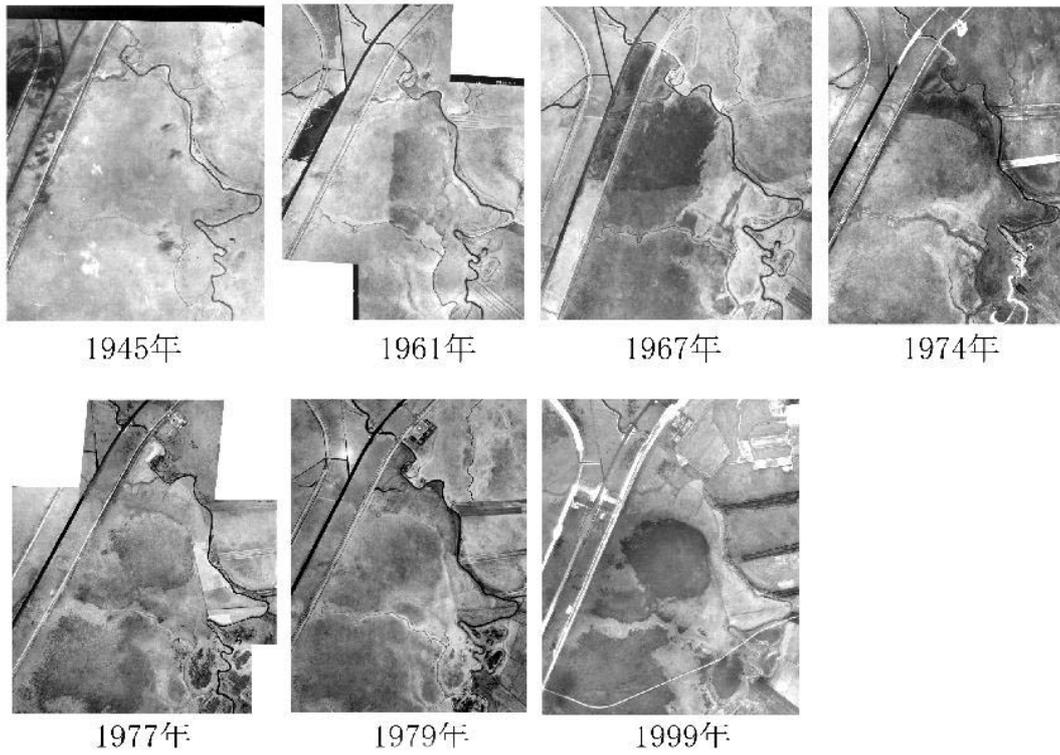
図中のシンボルは各プロットの Site score によって配列され、矢印は各環境要因の Biplot score を表す。Axis 1は全分散の 15.4%を表し、Axis 2は6.7%を表した(両軸共に $p > 0.01$ by Monte Carlo test)。WL mean: 地下水位(平均値)、WL sd: 地下水位変動(標準偏差)、TDN: 全溶存体窒素、TDP: 全溶存体リン

資料 - 4



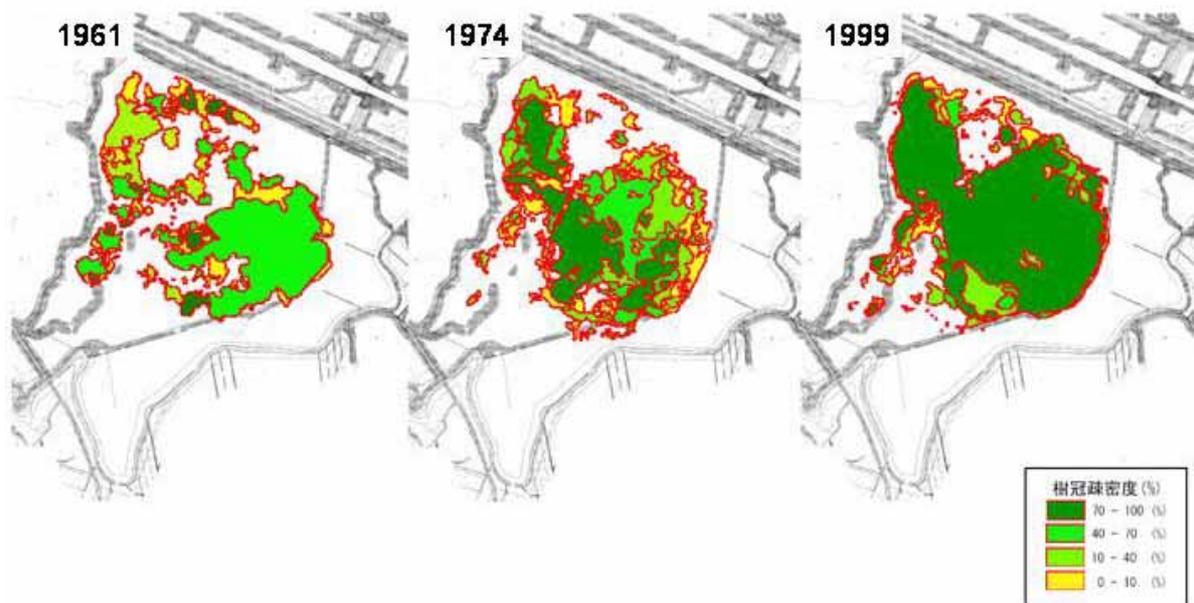
資料 - 4 各群落における地下水位(WL mean)と地下水位変動(WL sd)
図中に示された上下左右のバーは各変量の標準偏差を表す。

資料 - 5



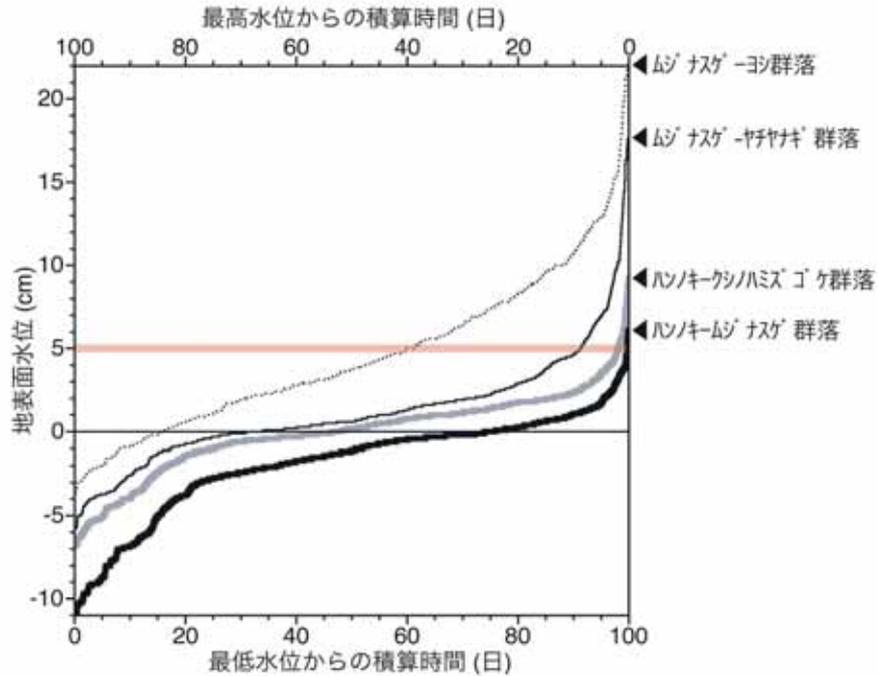
資料 - 5 広里地区経年変化.

資料 - 6



資料 - 6 広里地区年代別樹冠疎密度(北海道大学 松原健二作成).

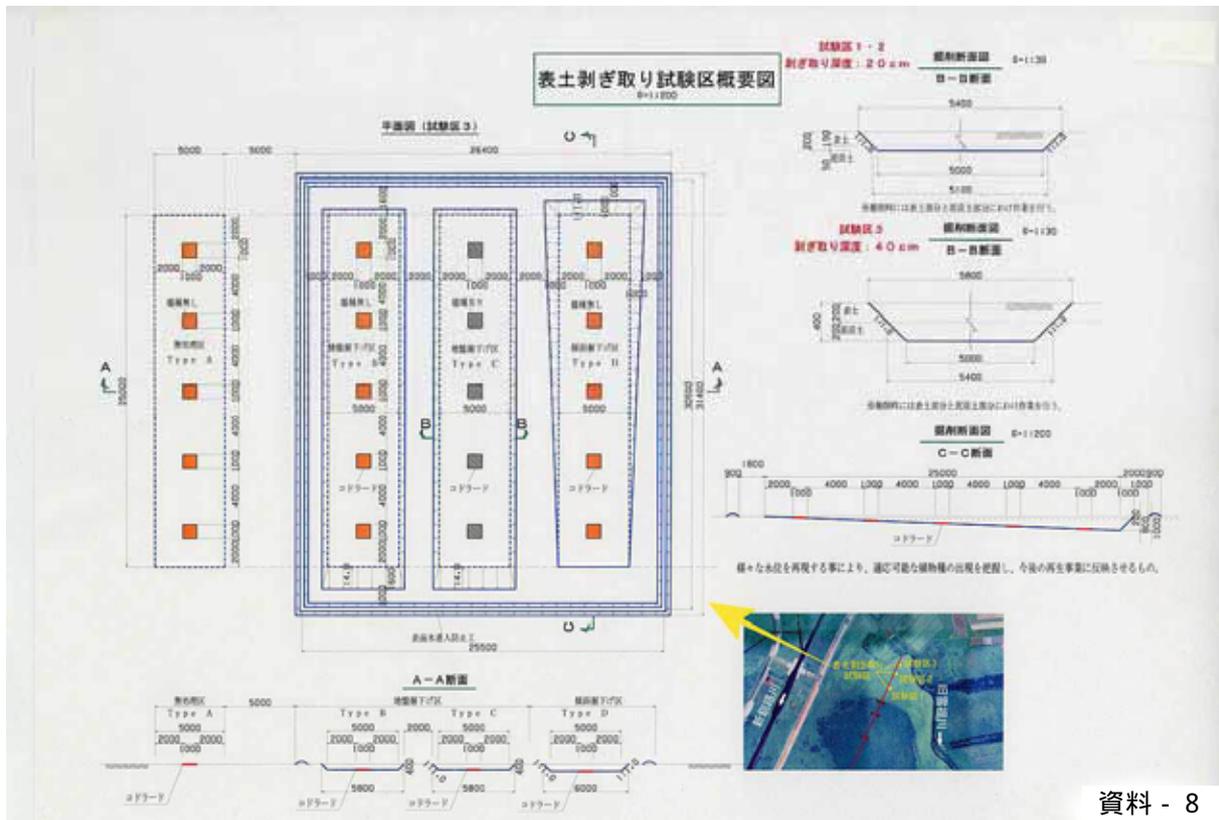
資料 - 7



資料7 湿原区域内での各群落における地表面水位の積算滞在時間

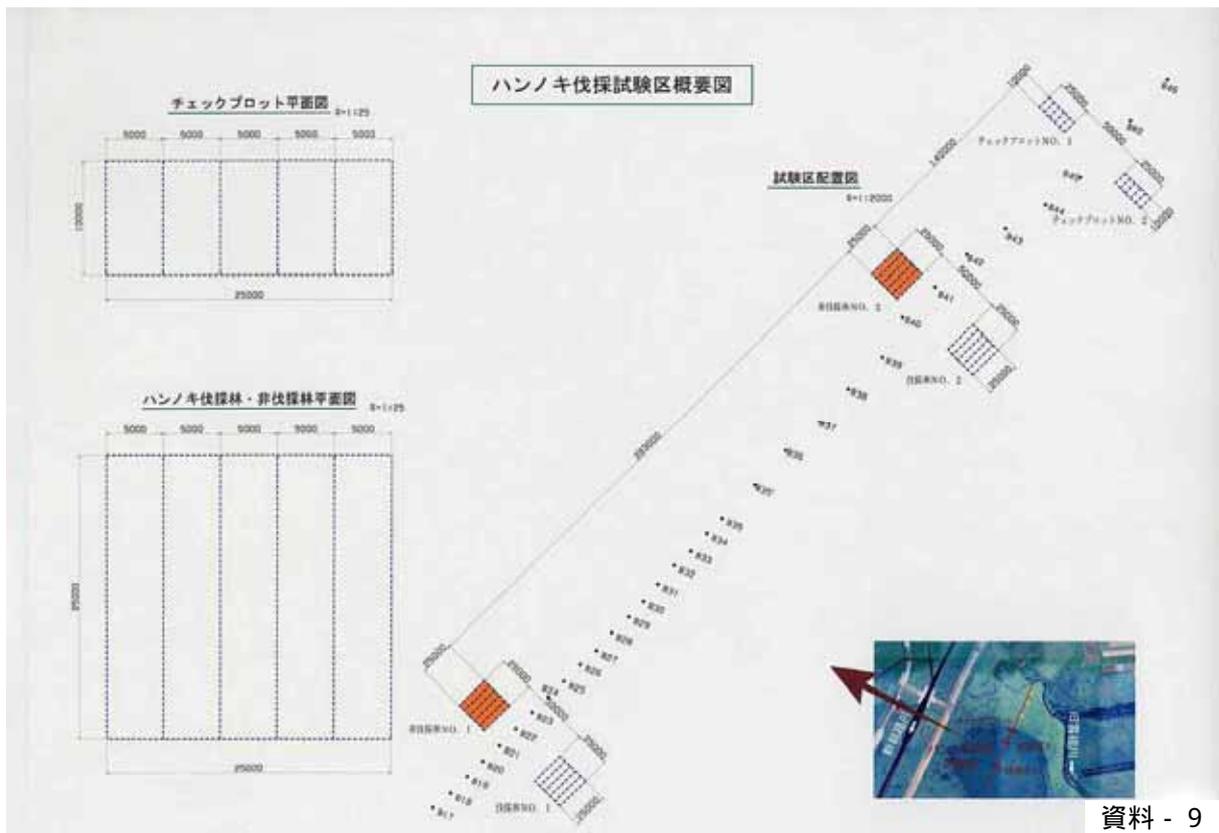
- ・地表面水位が5 cm以上のやや深い冠水状態となる期間は、ムジナスグ群落で約10～40日程度存在するのに対し、ハンノキ群落ではほとんど認められない。
 - ・最高水位については、ハンノキ群落がムジナスグ群落よりも約10 cm以上低い。
- ハンノキ林では大きな増水が無く、冠水期間も比較的短い

資料 - 8



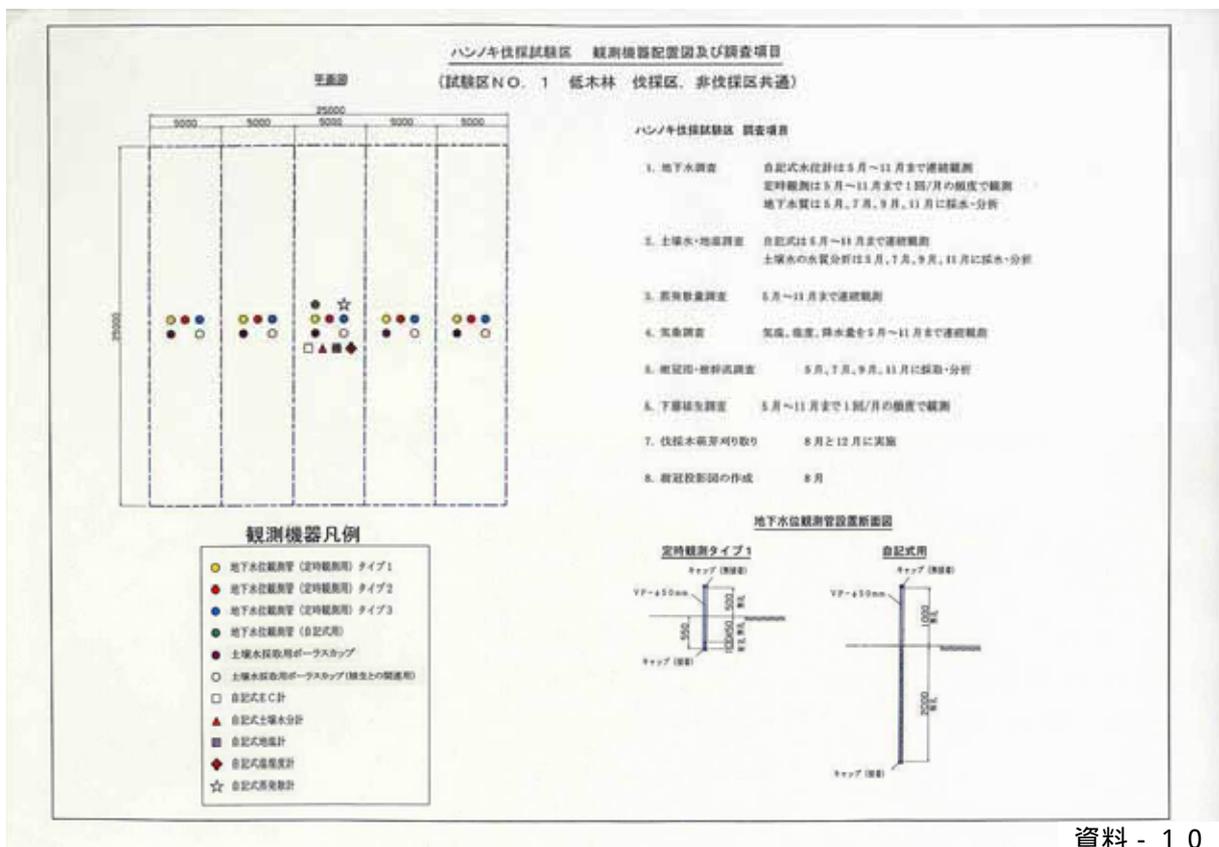
資料 - 8

資料 - 9

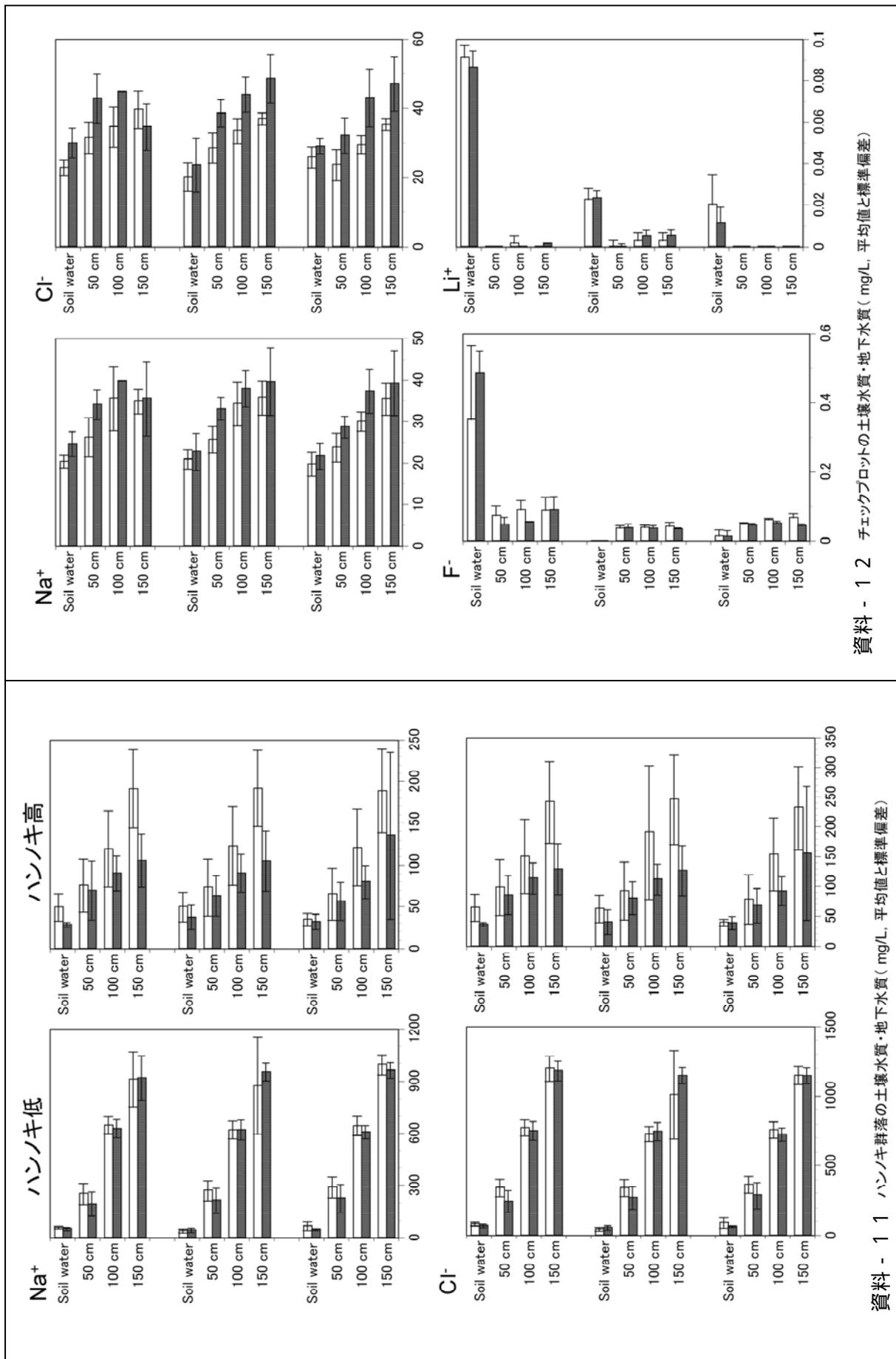


資料 - 9

資料 - 10



資料 - 10



資料 - 1 2 チェックプロットの土壌水質・地下水質 (mg/L, 平均値と標準偏差)

資料13

表 調査地ごとの各株を構成する幹の最大年輪数

調査地	B-21～23	B-37～38	B-41～42	B-45～46
株数	10	6	6	2
各株を構成する幹の最大年輪数	5～22	20～34	22～36	37～39

注)株中に枯れた幹の痕跡を有する場合があるのでこの数字は必ずしも個体の齢を示していない。

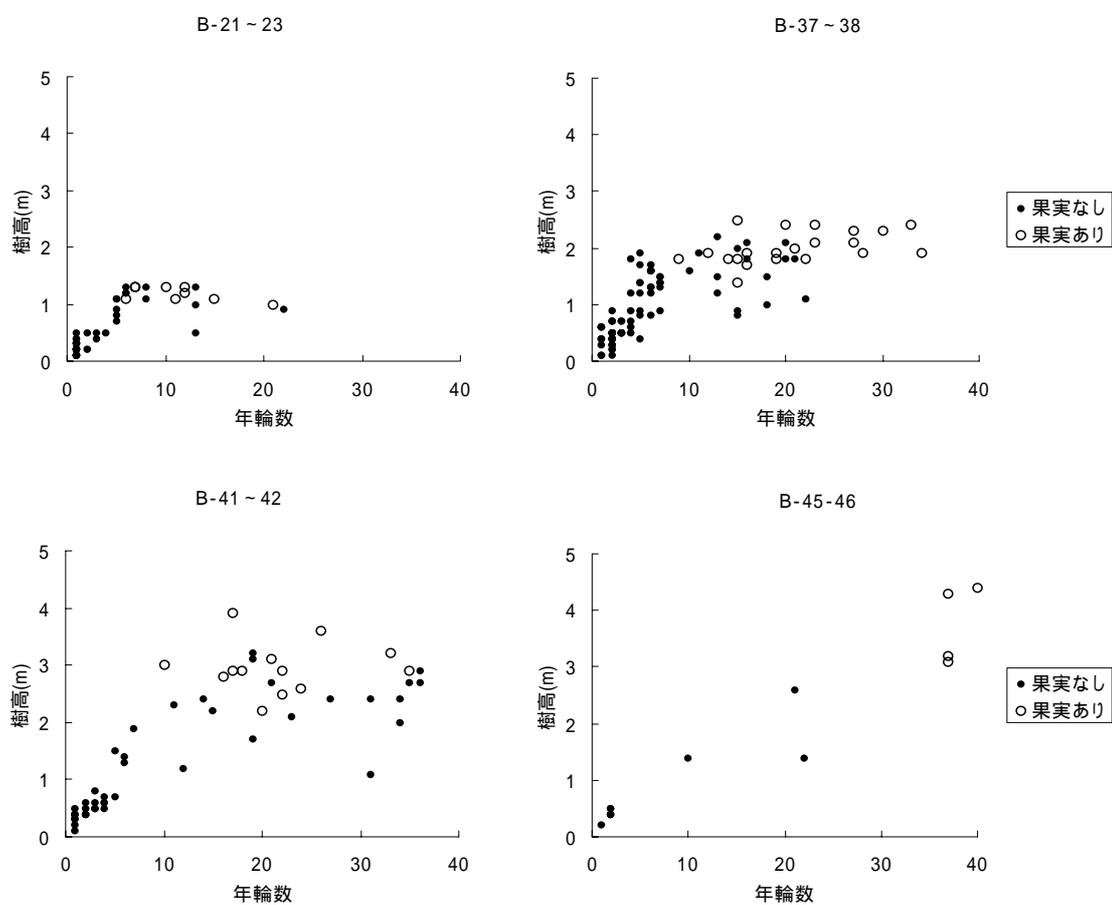
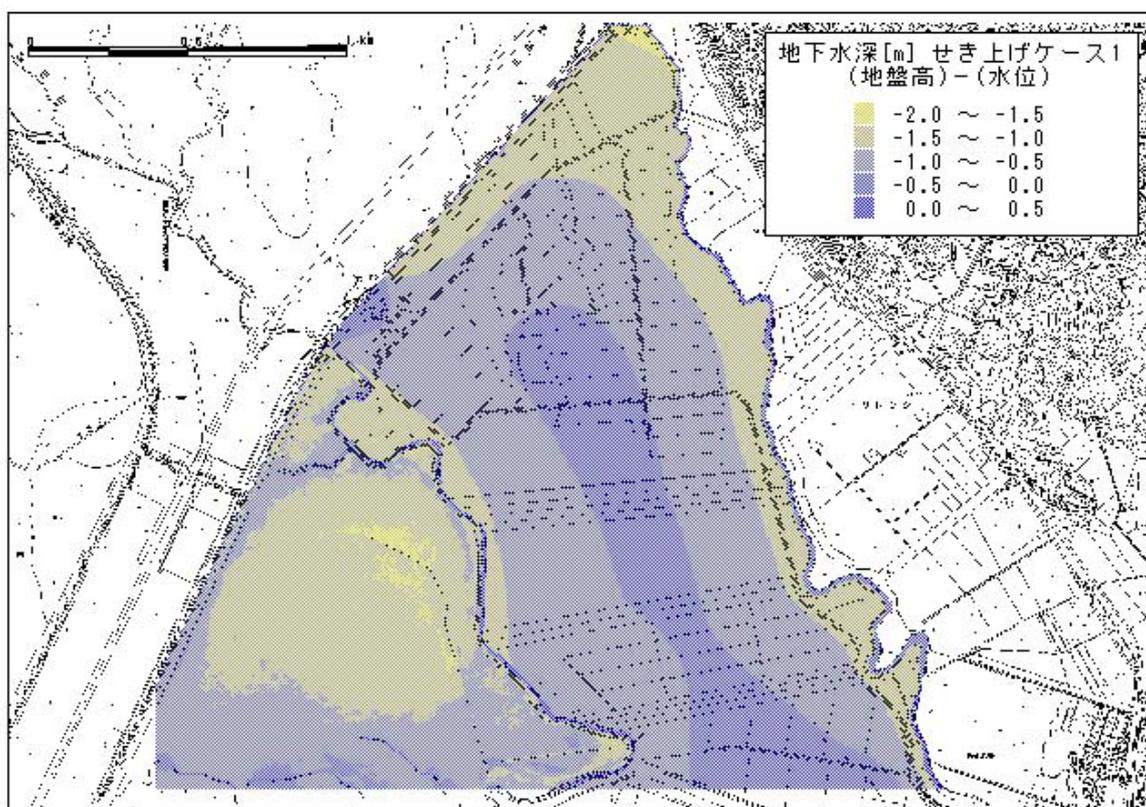
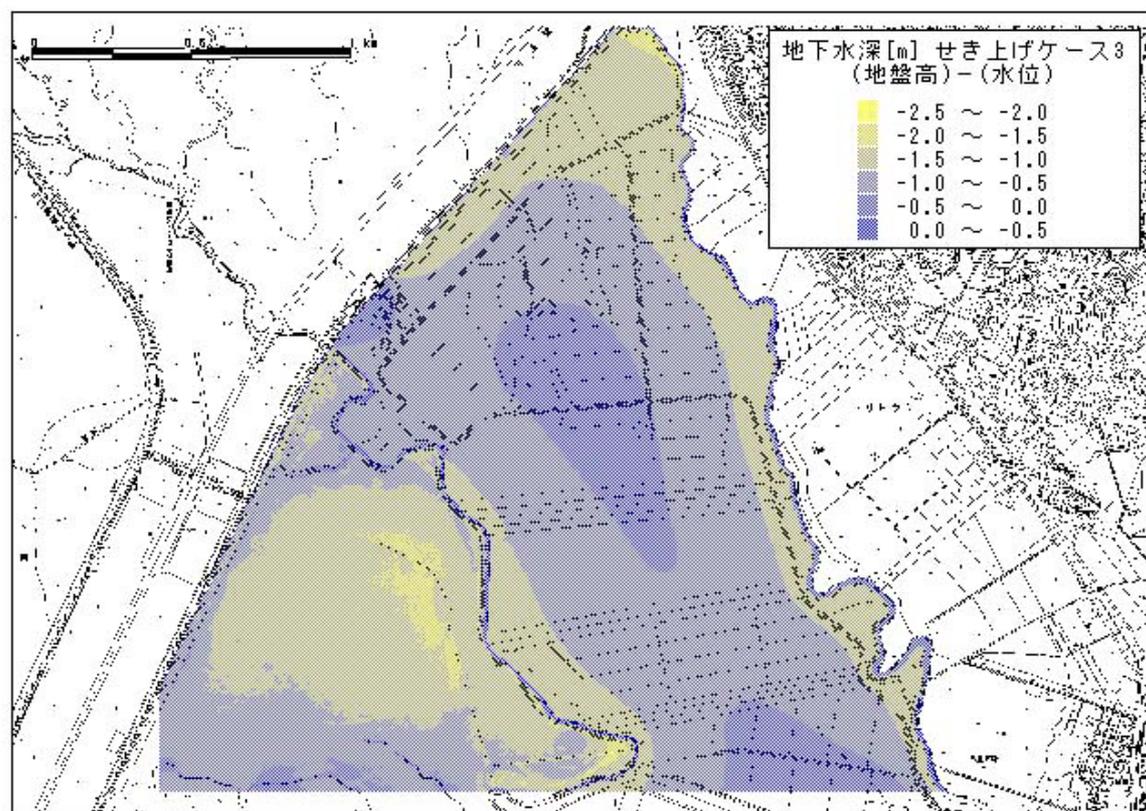


図 幹の年輪数と樹高及び果実の有無



資料 - 1 4 準3次元モデル解析 (堰上げケース1)



資料 - 1 5 準3次元モデル解析 (堰上げケース3)

